

お父さんのおにぎり

島原市立第二小学校 香月 優志

ぼくのお父さんは消防士です。お父さんはいつも大きなバクダンおにぎりを二つ持っていて仕事に行きます。お昼ご飯や、晩ご飯がゆっくりに食べることができないので、早く食べることができるように、おかずをつめたバクダンおにぎりにしているとお母さんが言っていました。

幼稚園の遠足の時に、お母さんが風邪をひ

いてしまったので、お父さんがお弁当を作ってくれました。台所に立って慌ただしくしているお父さんを見て、楽しみよりも、不安が勝ち、お弁当ができるまで、ドキドキしていました。

よし、出来た。

満足そうな顔でお父さんが声を上げたので、恐る恐る台所へ行くと、バクダンおにぎりが二つ目に入りました。

えー、今日遠足で友達もおるけん、バクダ

ンおにぎりとか嫌だ。

と言った。ぼくに、  
「食べてみればびっくりするけん。友達もう  
うやましがるぞ。」  
と不てくされた。ぼくに言いました。

遠足に持って行く、水筒とシート、あとお  
父さんの作った「バクダンおにぎり」をリュ  
ックにつめこみ遠足に行きました。お昼にな  
って、友達と食べる場所を決めて、先に取り  
出した友達のお弁当は、卵焼きや、ブロッコ

リーが入ってたおいしそうな弁当でした。

「ぼくもお母さんが風邪を引いてなかったら  
よかつたのに。」

ぼくはべの中で叫びました。

リュックからお父さんの「バクダンおにぎり」  
を取り出し、友達に見せると、

「すごい。めっちゃんおにぎり大きいやん。お  
にぎりの中何が入ると。」

と友達が興味深々に聞いてきました。

ぼくに「ては見慣れたバクダンおにぎりは、

友達から見れば珍しかったように、ほくのシート  
の周りには友達がたくさん集まっていた。ま  
した。

おにぎりの具は3つの角に、からあげ、卵焼  
き、ウインナーが入っていて、真ん中にはシ  
ーチキンマヨネーズが入っていました。  
一口食べるたびに、

「何が入っていたか。」  
と聞く友達に、誇らしげに説明しながら食べ  
ました。最初は恥ずかしかったバクダンおに

ぎりも、自慢のお弁当になっていました。

家に帰って、真先に父さんに、  
「今日のお弁当ありがとう。今度はぼくがお  
父さんにバクダンおにぎりを作ってもらえ  
ると言おうと、お父さんはうれしそうに笑って  
いました。」

作文を書きながら、忘れていた約束を守る  
ため、明日のバクダンおにぎりはぼくが作る  
うと思えます。